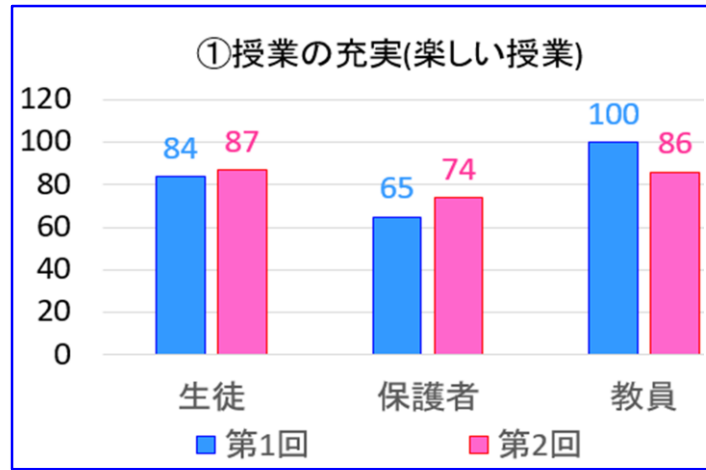
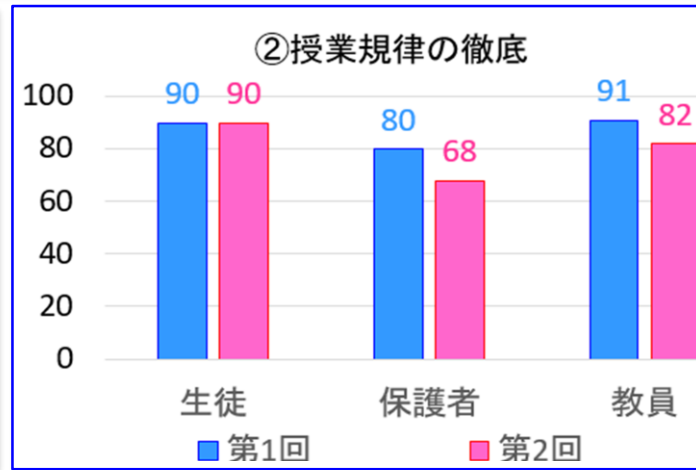


令和3年度 第2回 学校関係者アンケートの結果について(表面)

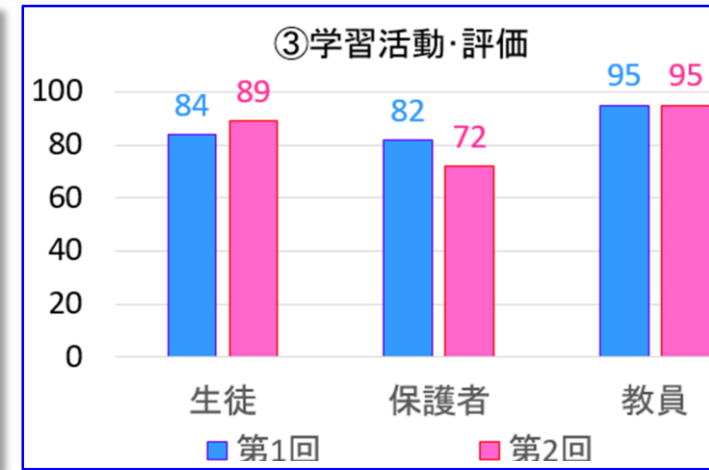
令和4年1月19日
東大和市立第五中学校



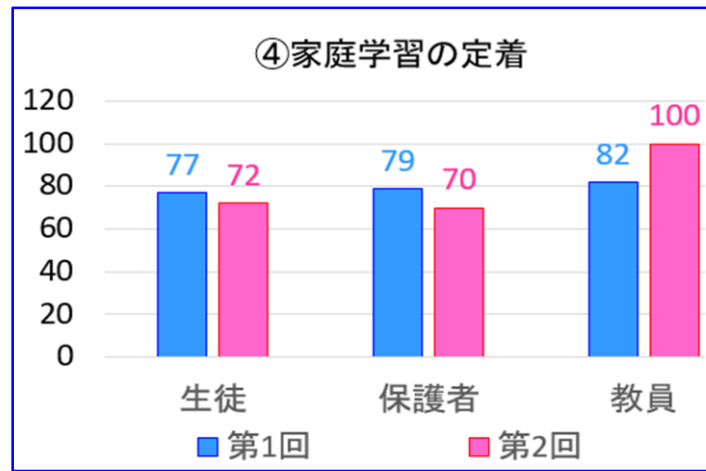
【分析】
G I G A端末の授業への導入により生徒の授業への肯定感が高まったが、教員にはG I G A端末を用いた教材開発や使用方法に負荷が掛かっていると考えられる。



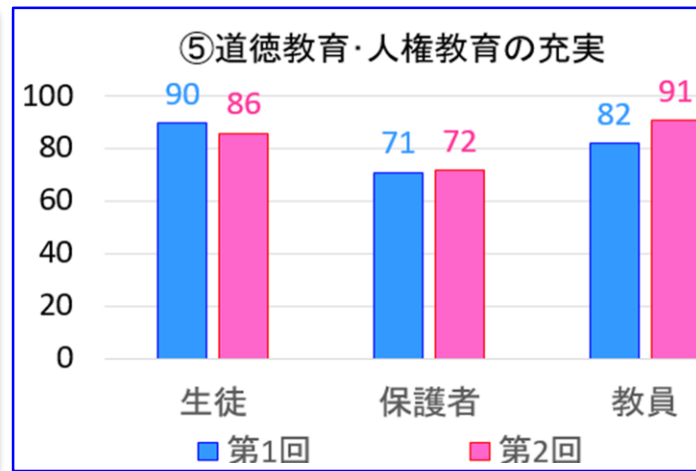
【分析】
提出物を遅滞もしくは提出できない生徒が一定数いることから、授業に参加する心の態度が整っていないこととの相関が考えられる。



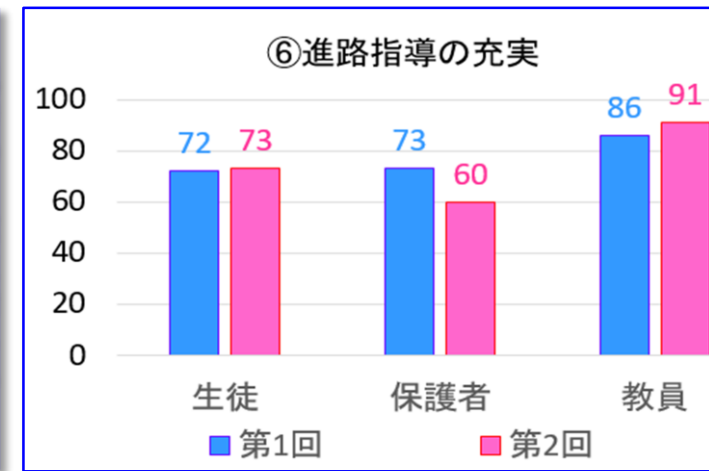
【分析】
単元テストにより日常的に学習内容の振り返りを行うことが功を奏していることが継続していると考えられる。



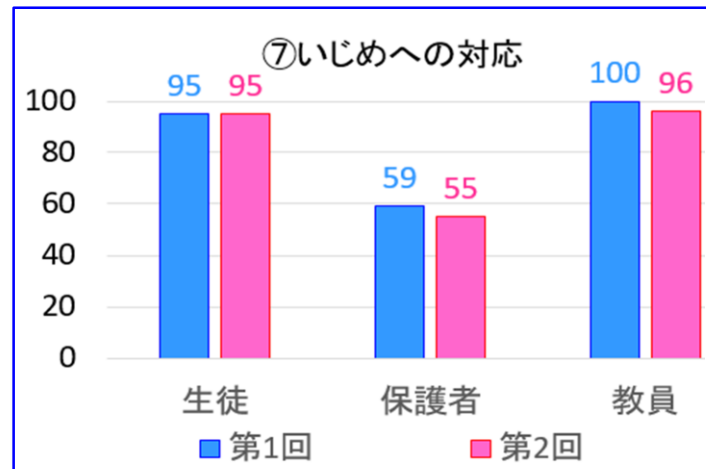
【分析】
教員は家庭学習記録シートと学力の相関を分析する中で生徒の学びを肯定的に受け止めているが、家庭での評価が低下しているため、調査・分析を継続する。



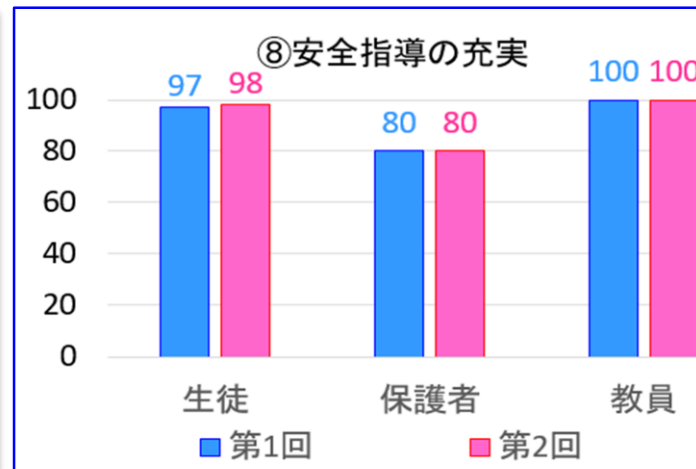
【分析】
数値の微増減があるものの特別の教科道徳の時間を要として、学校の全ての教育活動の中で生徒の心の種の発芽を促していることが表れていると考えられる。



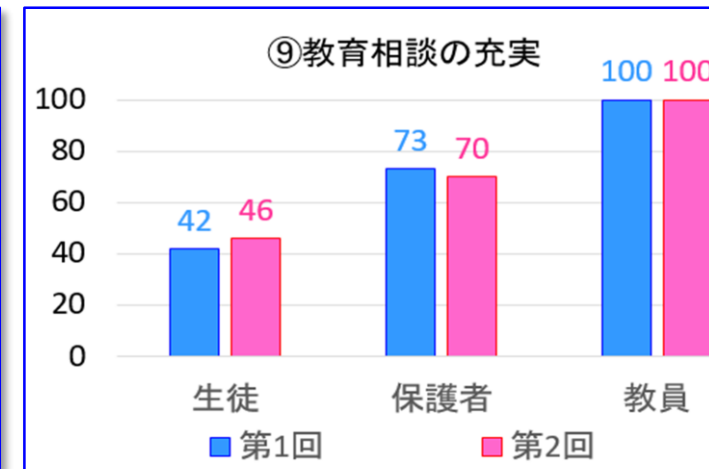
【分析】
入学者選抜に焦点を当てると、昨年度から出願等の方法の変更が継続し、保護者への説明を丁寧に実施しているが、深まらないことが考えられる。



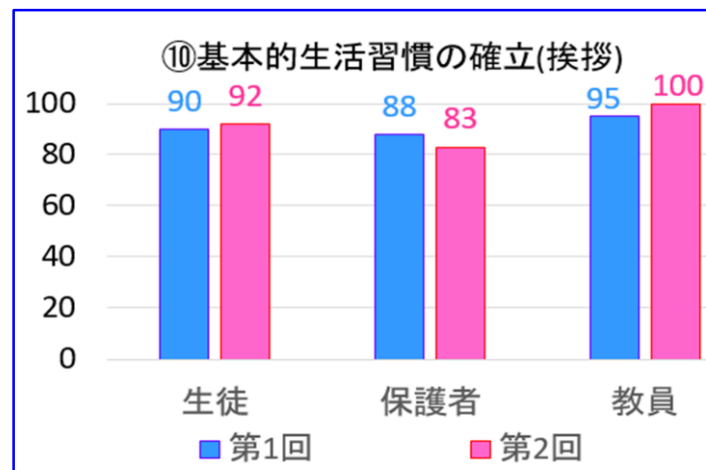
【分析】
いじめへの対応は定期的な各種調査により早期発見につながっているが、いじめの実態に関わる情報が保護者に伝わっていないことが考えられる。



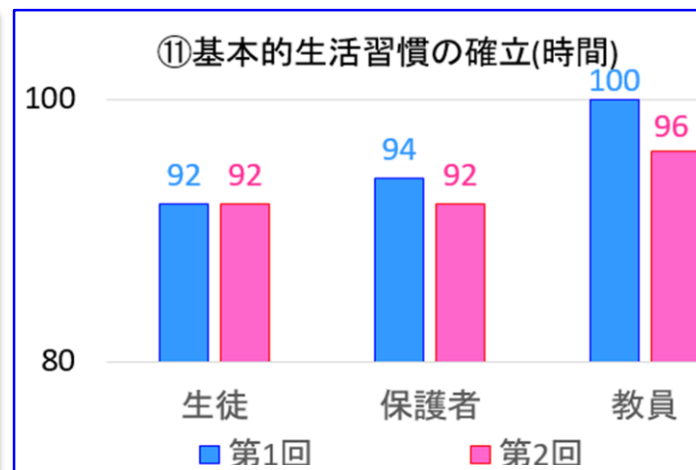
【分析】
毎月の安全指導の継続が、生徒と教員の肯定的な回答に表れていると考えられる。



【分析】
生徒へのスクールカウンセラー(S C)の認知度が上昇している。今後は朝礼や給食時の校内放送を活用して、S Cの声を生徒に届ける場を増やす。



【分析】
挨拶奨励の取り組みは、教員と家庭で継続して共有できていると考えられる。



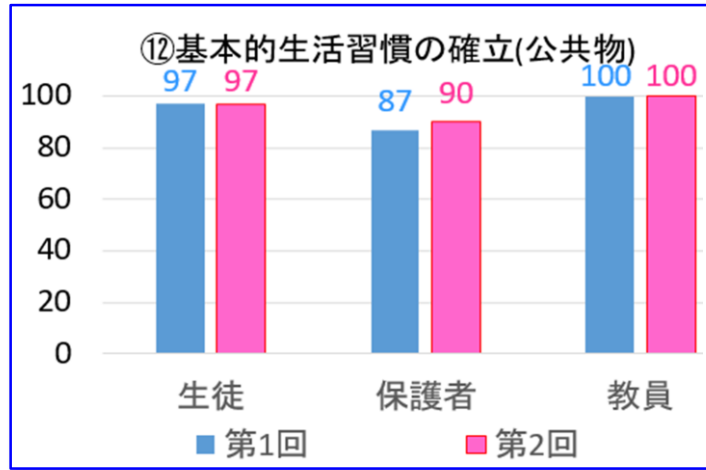
【分析】
2学期の校内では、小走りする生徒が見かけられ、改善されない場面があった。教員の危機意識が高く、3学期での改善につなげる。

【グラフの見方】

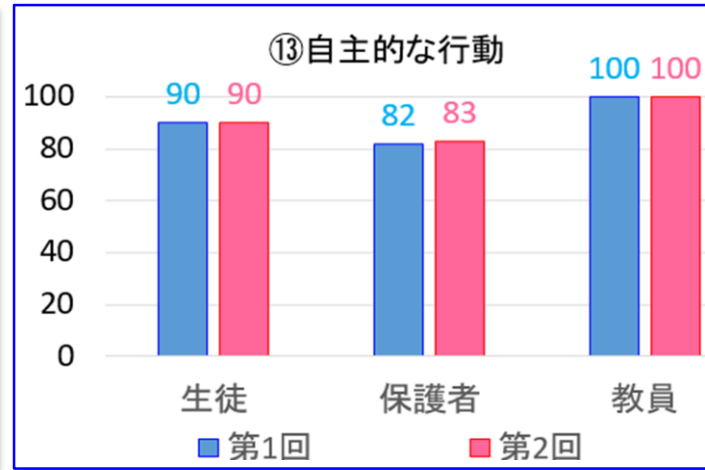
- 単位 百分率(%)
- グラフ上部の数値ラベル 肯定的な回答(A層とB層)の合計値
A層:「とてもそう思う」
B層:「どちらかといえばそう思う」
C層:「どちらかといえばそう思わない」
D層:「そう思わない」

令和3年度 第2回 学校関係者アンケートの結果について(裏面)

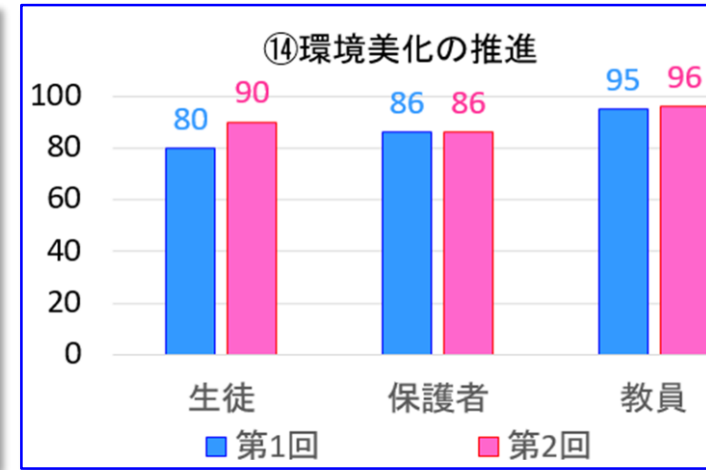
令和4年1月19日
東大和市立第五中学校



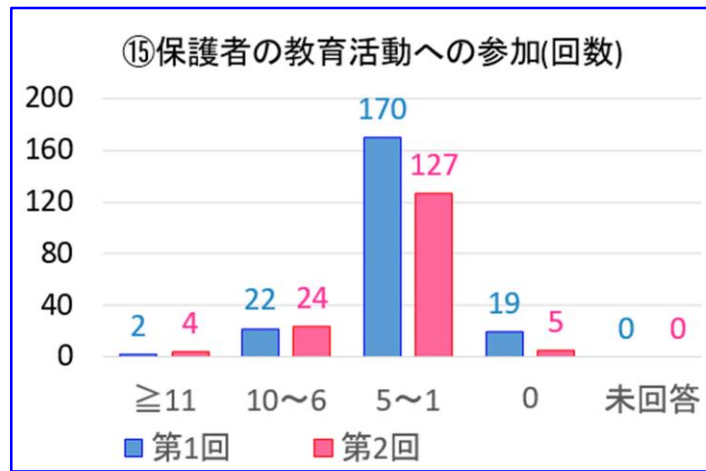
【分析】
校内環境が清潔に保たれていることが継続している。



【分析】
授業開始3分前行動や朝礼時の移動等、生徒の自主的な行動が継続しているが、一部に生徒の意識のゆるみが見られる。



【分析】
校内環境は肯定的な回答が平成29年度から継続して微増している。



【分析】
保護者による学校への来校以外にもGIGA端末を用いたりリモート保護者会をより工夫するなどして、参加の機会を増やしていく。